

雌 阿 寒 岳

札 幌 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

雌阿寒岳では、7 月 8 日に体に感じない振幅の小さな火山性地震が増加しました。火山性微動の発生はなく、噴煙の様子や地殻変動には特に変化はみられません。今後の火山活動の推移に注意する必要がありますが、現在、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

平成 21 年 4 月 10 日に噴火予報（レベル 1 平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震・微動活動の状況（図 1～2、図 6、表 1）

7 月 8 日に体に感じない振幅の小さな火山性地震が増加しました。8 日の地震回数は 364 回（暫定値）で、一日あたりの地震回数が 200 回を超えたのは、2008 年 11 月 10 日（241 回）以来です。地震回数は 8 日 21 時以降減少し、9 日は 9 時までに 18 回（暫定値）と、静穏な状態となっています（図 1）。震源は概ねポンマチネシリ火口の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありません。

なお、火山性微動は観測されていません。

・噴煙の状況（図 3、図 6）

遠望カメラによる観測では、8 日から 9 日かけて、火口上 200 m 以下で推移しており、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

・地殻変動（図 4～5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変動は観測されていません。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

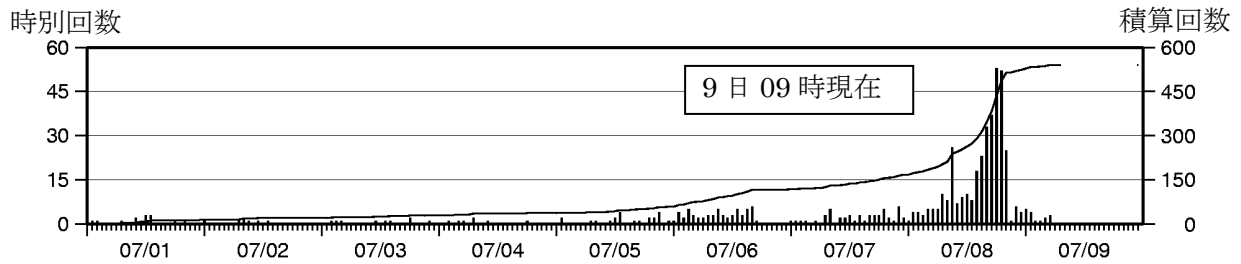
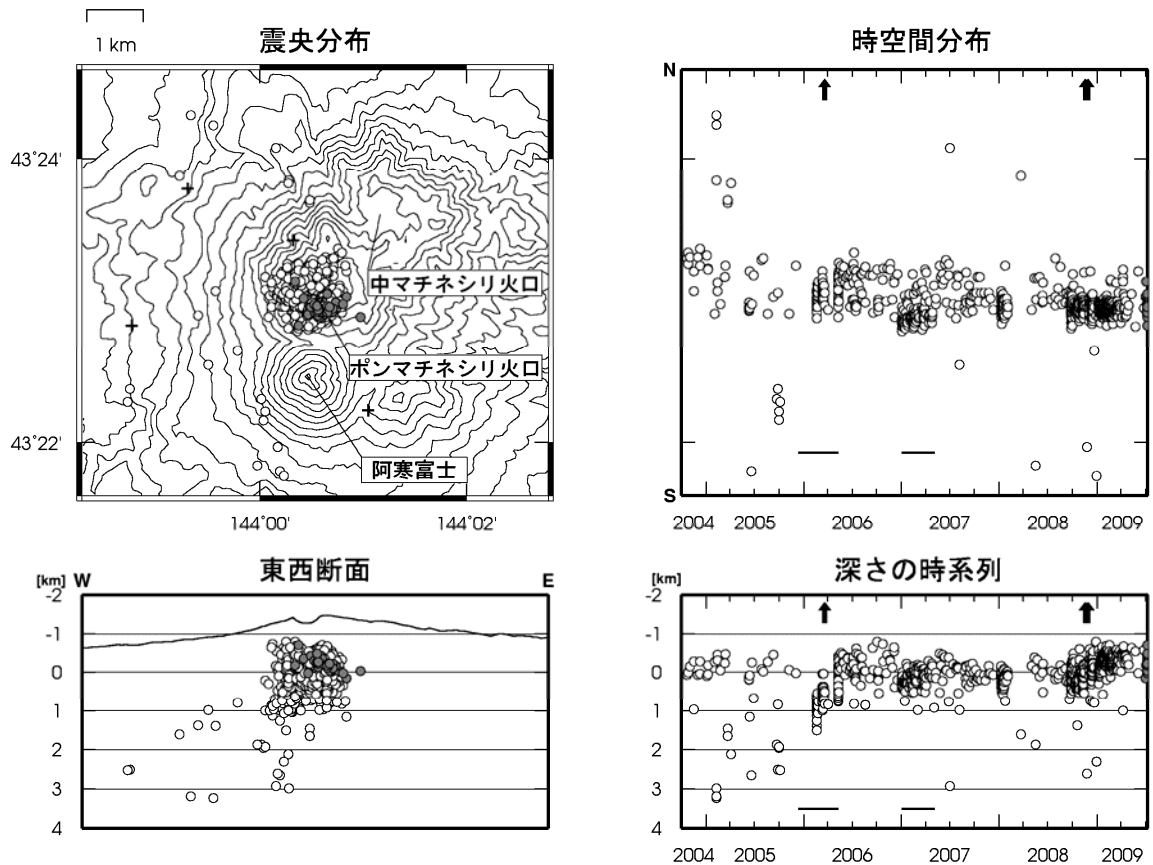


図 1 雌阿寒岳 火山性地震の時間別回数及び積算回数（2009 年 7 月 1 日～7 月 9 日）

表 1 雌阿寒岳 火山性地震・微動の月回数（B 点）

2008～2009 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	17	1699	512	795	563	1785	1257	617	68	15	33	575
微動回数	0	2	0	14	3	25	12	2	0	0	0	0

* 7 月の地震回数は 9 日 09 時まで

図 2 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2004 年 10 月 1 日～2009 年 7 月 9 日 09 時現在）
（丸印：震源、+印：地震観測点 ↑印は噴火を示す）

●：2009 年 7 月 1 日～2009 年 7 月 9 日の震源

○：2004 年 10 月 1 日～2009 年 6 月 30 日の震源

表示期間中、2005 年 12 月 11 日から 2006 年 5 月 9 日及び 2007 年 1 月 3 日から 2007 年 5 月 5 日にかけて、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

- ・震源の多くはポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～3 km 付近）に分布しています。2009 年 7 月 1 日以降の震源も概ねこの領域内に分布しています。



図 3 雌阿寒岳 上徹別の遠望カメラで見た雌阿寒岳の状況
(2009 年 7 月 9 日 09 時 00 分頃撮影)

- ・遠望カメラによる観測では、8 日は、21 時頃に白色の噴煙が火口上 200m 上がっているのが確認されましたが、その他は雲のため確認できませんでした。9 日は、7 時までは雲のため確認できませんでしたが、7 時以降は火口上 100m 以下で推移しており、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

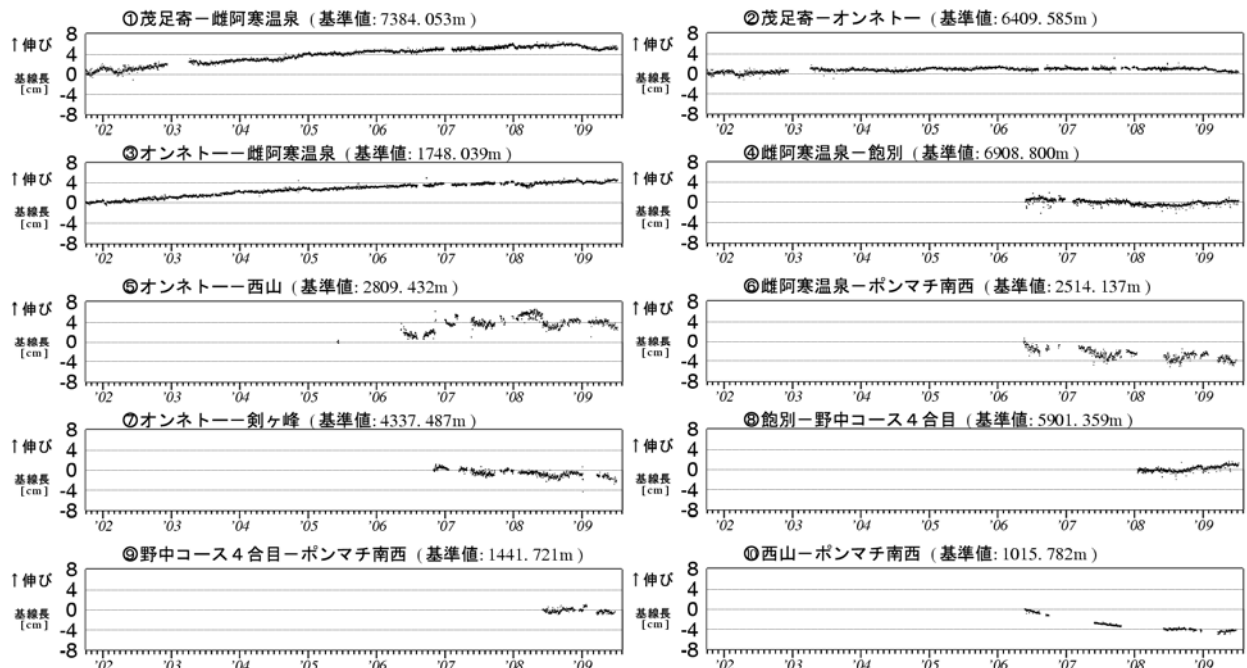


図 4 ※ 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月 1 日～2009 年 7 月 8 日）

・ 火山活動によると考えられる変動は観測されていません。

上段の基線長変化①～⑩は、図 5 の観測点配置図の基線番号①～⑩に対応しています。

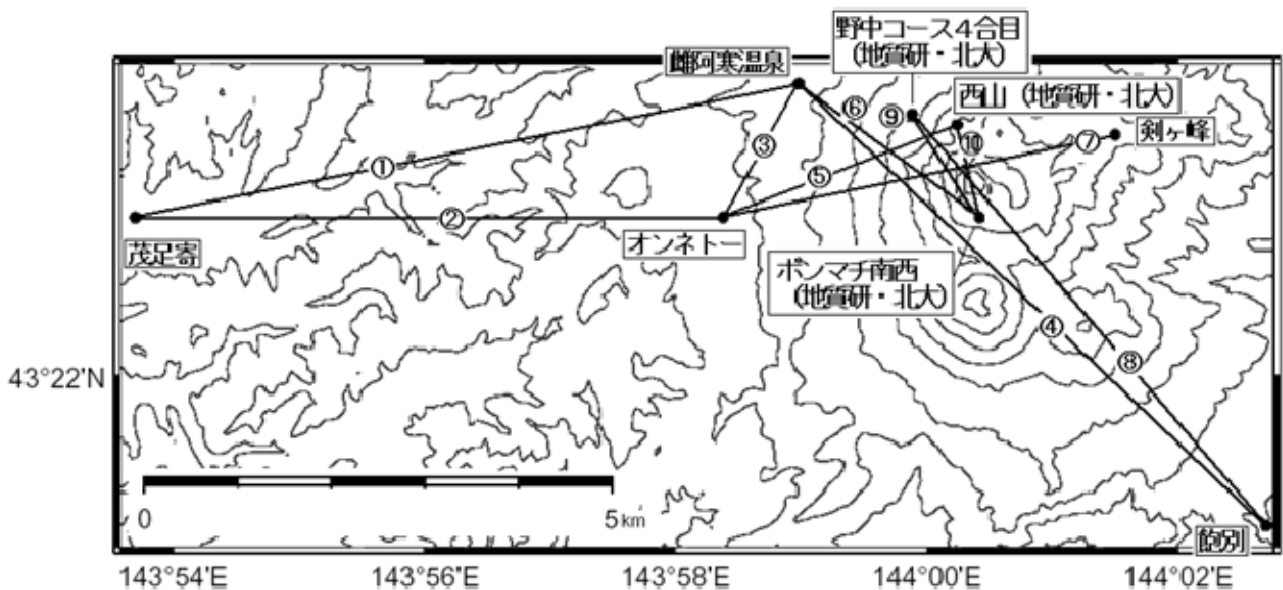


図 5 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

○雌阿寒岳の火山活動経過

図 6 に 1975 年以降の雌阿寒岳の火山活動経過を示します。

- ・ポンマチネシリ火口では、1988 年以降ごく小さな噴火が繰り返されています。これに対応して、火口温度の高温状態や噴煙活動の活発な状態が 1987 年以降 1999 年まで続いていました。この間、地震回数は増減を繰り返し、火山性微動も時々発生するなど地震活動は活発な状態が続いていました。
- ・その後、ポンマチネシリ火口の熱活動や噴煙活動は徐々に低下傾向となり、2003 年以降は地震活動を含め火山活動は比較的静穏な状態で推移していましたが、2006 年 2 月からはポンマチネシリ火口直下の西側を中心とする地震活動が活発化し同年 3 月に赤沼火口内及びポンマチネシリの北西側斜面でごく小さな噴火が発生しました。
- ・2008 年 9 月以降、地震活動の活発化、火山性微動の発生、熱活動の若干の高まり等がみられ、11 月にごく小さな噴火が発生しました。

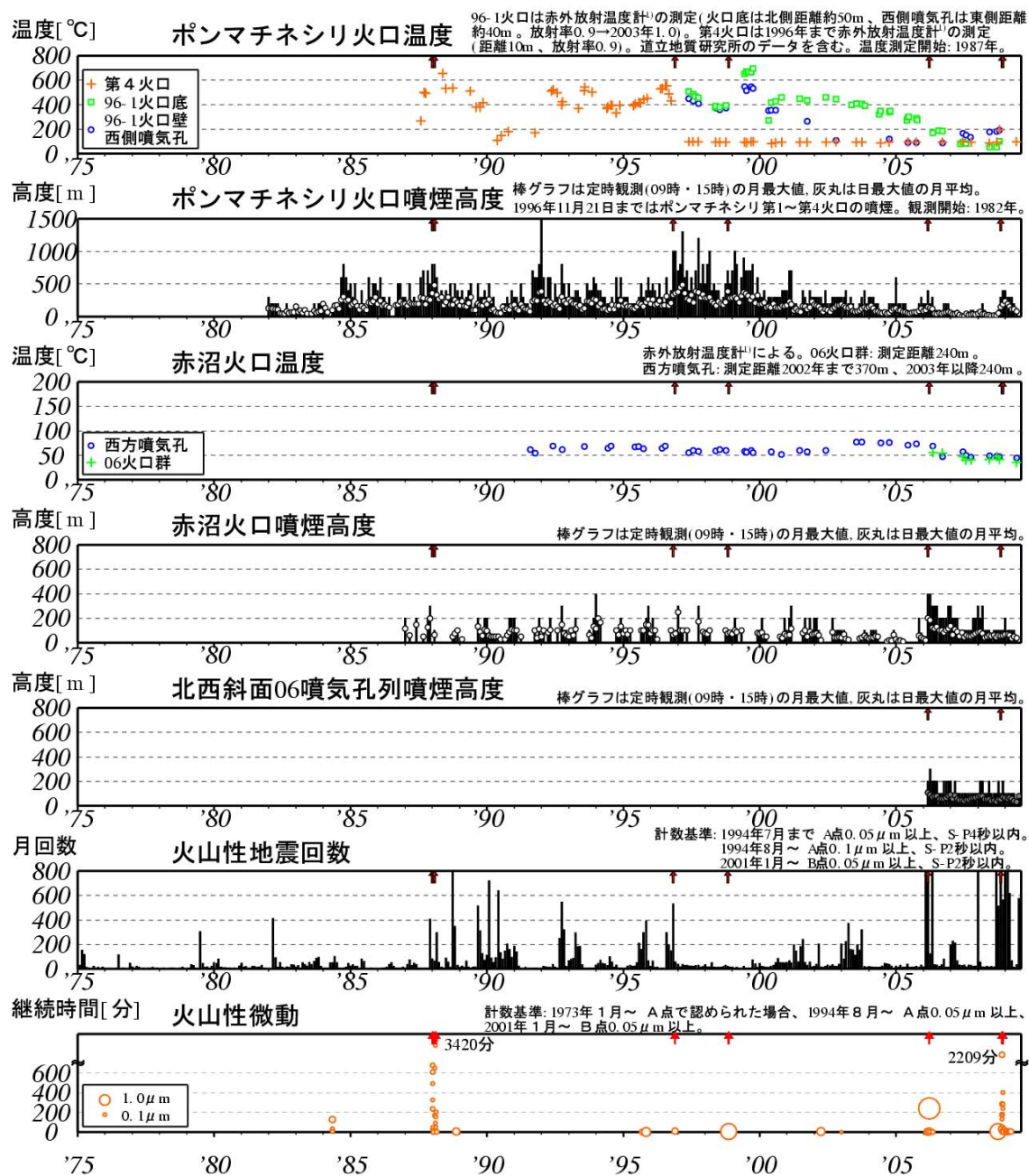
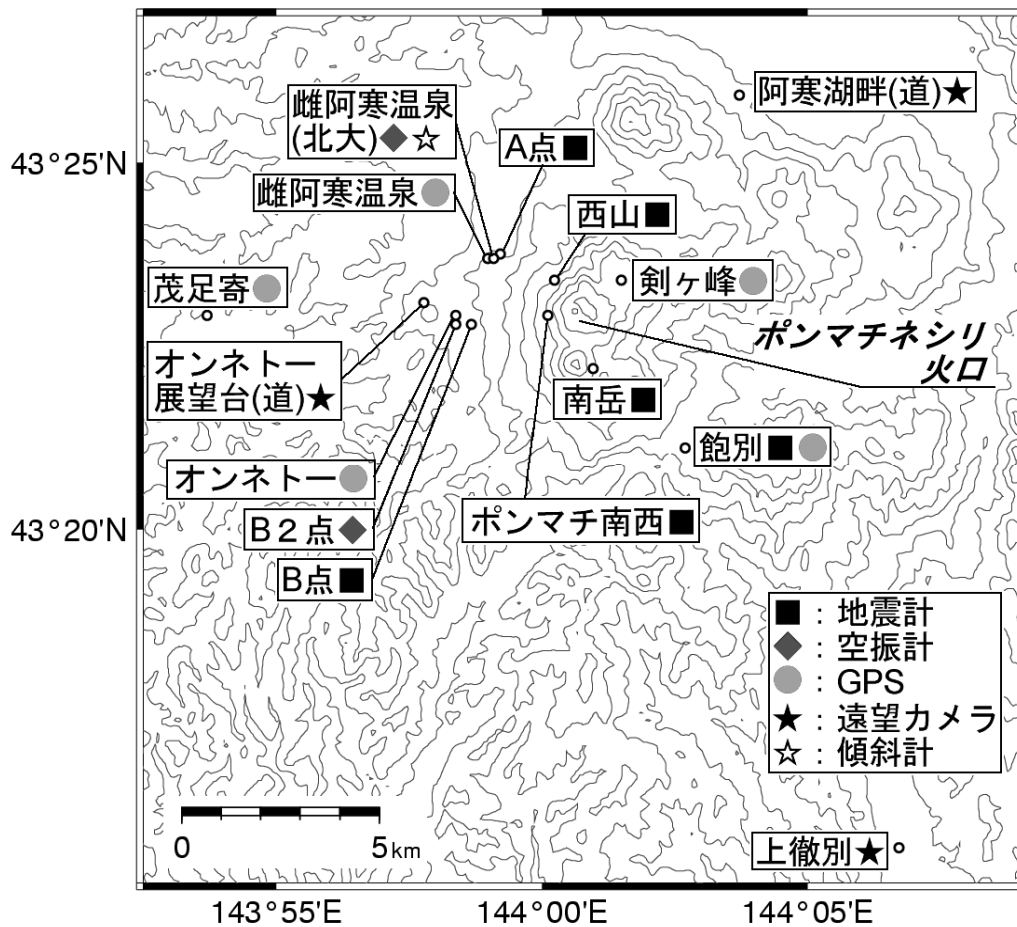


図 6 雌阿寒岳の火山活動経過図

(1975 年 1 月 1 日～2009 年 7 月 9 日 09 時現在 ↑印は噴火を示す)

○観測点情報



観測点一覧表 雌阿寒岳（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）

観測機器	地点名	位置			設置 高 (m)	観測開始 年月
		緯度 (度分)	経度 (度分)	標高 (m)		
地震計	A 点	43 23.7	143 59.2	740	0	1981 年 1 月
	B 点	43 22.8	143 58.7	680	-1	2000 年 11 月
	西山	43 23.4	144 00.3	1275	0	2001 年 11 月
	ポンマチ南西	43 22.9	144 00.1	1265	0	2003 年 6 月
	南岳	43 22.2	144 01.0	1096	0	2004 年 10 月
	飽別	43 21.1	144 02.7	803	0	2006 年 11 月
空振計	B 2 点	43 22.8	143 58.4	636	2	2000 年 11 月
遠望カメラ	上徹別	43 15.7	144 06.7	145	4	1996 年 4 月
GPS	オンネトー	43 22.9	143 58.4	636	8	2001 年 9 月
	茂足寄	43 22.9	143 53.7	354	3	2001 年 9 月
	雌阿寒温泉	43 23.7	143 59.0	719	4	2001 年 9 月
	飽別	43 21.1	144 02.7	803	4	2006 年 5 月
	剣ヶ峰	43 23.5	144 01.9	1184	1	2006 年 11 月